

[用紙 2]

2006年 6月 22日

小委員会設置申請書

作成者：原 利明

<p>1.名 称 英文名称は Sub Committee を付記</p>	<p>公共建築小委員会</p>	<p>英文 名称</p>	
<p>2.所属本委員会 (所属運営委員会)</p>	<p>ユビキタス建築都市特別研究委員会</p>		
<p>3.設 置 期 間</p>	<p>2006年 7月 ～ 2008年 3月</p>		
<p>4.設 置 目 的</p>	<p>(具体的な目標) 本小委員会は、本委員会の目的に沿い昨年度の「建築小委員会」の活動成果を踏まえ、ユビキタス関連技術が適用された不特定多数の方が利用される公共建築の具体像、その効果や問題点を、利用者ニーズを踏まえた建築計画、防災・避難、情報伝達と人間の五感等の視点で検討し、建物用途固有の学術研究や技術開発の可能性と、その方向性を抽出することを目的とする。</p>		
<p>英 文</p>			
<p>5.委員会の位置付け</p>	<p>来るべきユビキタス・コンピューティング社会が建築に求める条件は多岐にわたっている。そのため、学会に設置し、広範な分野のメンバーにより検討を行い、その成果を速やかに社会に還元することが求められる。</p>		
<p>6.委員会の構成 (確定している委員 予定者のリストを別途添付する)</p>	<p>(委員構成の考え方、分野別構成、地域性、公募制等) 本委員会の委員に加え、計画系、環境工学系、構造系、情報系、ユーザビリティ等、本テーマに関して研究実績・知見のある委員を、大学および企業から指名して推薦する。(名簿は別添)</p>		

7.活動計画	(活動の具体的方法、内容)		
	初年度： <ul style="list-style-type: none">施設利用者、管理・運営者等の利用者の課題の抽出空間と行動、生活シーンからの課題の抽出公共建築固有の課題の抽出検討する公共建築の建物用途の整理ユビキタスによって可能となる公共建築の未来像の検討 これらをゲストスピーカー（例：青柳氏：西洋美術館館長、高橋氏：(株)トミー等）との意見交換や各メンバーの専門の知見から具体的な課題と解決策を検討。 2年度： <ul style="list-style-type: none">建築計画に関する考え方防災・避難に関する考え方情報提供と人間の五感に関する考え方 未来像に対し、各々の可能性と方向性について検討。		
8.期待される成果と公表方法	(内容と公表形態) ユビキタスコンピューティング社会で実現できる公共建築のあり方についてシンポジウム・HP等で広く学会員に提供する。		
9.設置を予定するWG <small>英文名称は Working Group を付記してください。 (WGがなければ記載不要。WGが2つ以上ある場合は別紙に記載のこと。必要なら各WG毎に小委員会設置申請書と同様の書式のものを添付する)</small>	名称：	英文 名称	
	目的：		
	期間： 年 月 ～ 年 月		

注1) 各項目に関して提示された事項に注目して記述してください。

注2) 合同小委員会、研究会を設置する場合にもこの書式を準用してください。

[添付]

公共建築小委員会名簿

	役職	氏名	所属
1	顧問	渡辺 仁史	早稲田大学 理工学部建築学科 教授
2	主査	原 利明	鹿島建設(株) 建築設計本部
3	幹事	松永 直美	レモン画翠 取締役副社長
4	幹事	倉田 成人	鹿島建設(株) 研究・技術開発本部 小堀研究室
5	幹事	高瀬 大樹	清水建設(株) 技術研究所 計画技術グループ
6		福田 知弘	大阪大学大学院 工学研究科 助教授
7		加賀有津子	大阪大学大学院 工学研究科 助教授
8		檜村 俊也	(株)竹中工務店 建築設計部 情報G
9		万本 敦	ホーチキ(株) 開発研究所 センサ開発部 要素技術研究課
10		高橋 達見	大日本印刷(株) 研究開発事業化推進本部
11		遠藤 貴則	三菱マテリアル(株) 電子材料事業カンパニー 電子デバイス事業部
12		柳澤 剛	JR 東日本研究開発センターフロンティアサービス研究所 駅デザインG
13		遠田 敦	早稲田大学大学院 渡辺研究室